

1 日 時

平成28年7月28日（木） 午後2時から午後2時50分まで

2 場 所

市川市役所本庁5階 理事者控室

3 出席者

大久保博市長、田中庸恵教育長、五十嵐芙美子教育委員、小林正貫教育委員、
平田史郎教育委員、平田信江教育委員、鈴木みゆき教育委員、関係職員（16名）

4 議 事

- (1) 平成29年度教育振興重点施策について
- (2) その他

5 議事概要

○市長

定刻となりましたので、ただ今から、今年度第1回目の市川市総合教育会議を始めさせていただきます。

皆さま、お暑い中お集まりいただき誠にありがとうございます。

本日は、お手元の次第にもあるとおり、平成29年度 教育振興重点施策について協議させていただきたいと考えております。

こちらは、教育委員会がお考えの来年度の重点施策につきまして、後ほどご説明いただければと思います。

それでは、会議に先立ちまして、会議運営要綱6の(4)に基づき、本日の会議の公開・非公開の決定を行いたいと思います。

議題については、非公開事由に該当する議題ではないと思われるので、会議を公開することといたしますが、よろしいでしょうか。

————— 異議なし —————

ありがとうございます。

傍聴希望の方は現時点ではいらっしゃいませんが、来られた場合は入室を許可いたします。

それでは議題「平成29年度教育振興重点施策について」の協議に入ります。

協議に入ります前に、来年度の教育振興重点施策につきまして、教育委員会のお考えをお伺いしたいと思います。説明をお願いできますでしょうか。

○教育長

それでは、議題（1）「平成29年度教育振興重点施策について」ご説明申し上げます。

お手元の資料「平成29年度教育振興重点施策」をご覧ください。

こちらは、本年7月7日に、教育委員会として決定いたしました「来年度において教育の振興を図るため重点的に講ずべき施策」の方針でございます。

本日、市長と協議させていただいた上、その結果等を踏まえまして、来年度の教育行政運営方針に反映させて参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

詳細は、教育委員会事務局よりご説明申し上げます。

○教育次長

教育委員会事務局より、議題（1）「平成29年度教育振興重点施策」について、ご説明申し上げます。

お手元の資料2「平成29年度教育振興重点施策の概要」をご用意ください。

まず「重点施策」を議題とする根拠について説明いたします。この資料の左下にある枠囲み「市川市総合教育会議の運営に関する要綱」をご覧ください。

総合教育会議で協議・調整を行う事項として、2（1）②の下線部、「翌年度の教育行政運営方針に係る重点施策」が掲げられております。この規定に基づき、本日、ご協議をいただくものでございます。

次に、この重点施策の考え方についてご説明いたします。教育委員会では、この重点施策につきまして、真ん中の部分にございますように、「3本の柱」で構成しております。

- 一つ目は、「第2期市川市教育振興基本計画に基づく施策」の「新規施策の充実」
- 二つ目は、同じく第2期基本計画に基づく施策の「点検・評価結果に基づく施策の改善」
- 三つ目は、「新たな教育課題への対応」

ということで、これらの三つで構成をしております。

まず1つ目、「新規施策の充実」でございます。

第2期市川市教育振興基本計画を策定した際、計画期間に新たに取り組むこととした「校内塾・まなびくらぶ」、「塩浜学園における小中一貫教育」、「中高連携による市川版中高一貫教育」につきまして、継続して推進を図る必要があると考えております。

そこで、真ん中の部分をご覧ください。

①「校内塾・まなびくらぶ」につきましては、第2期基本計画における施策1-2-1「確かな学力を育成する取り組みの推進」

②「小中一貫教育」及び「中高一貫教育」につきましては、施策2-2-2「学校間の連携の推進」として、

これらは引き続き、平成29年度の重点施策として位置付けております。

2つ目は、「点検・評価に基づく施策の改善」でございます。教育委員会では、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行っております。

左側の枠囲みをご覧ください。今年度は、平成27年度分の点検・評価を行いました。キャリア教育や教職員が子どもと向き合う時間の拡大など、ここに掲げる5つの施策について十分な実現が図られてきていないとの評価結果でございました。

そこで、これらを速やかに改善するため、真ん中の部分にございますように、「左記①～⑤の施策の改善を図る」として、重点施策に位置付けております。

3つ目は、社会情勢の変化に伴って顕在化した、「新たな教育課題への対応」でございます。

左側の「新たな教育課題の顕在化」にあります①と②については、真ん中の「新たな教育課題への対応」にあります1と2がそれぞれ対応する重点施策ですが、昨年度と同じ内容となっております。この1と2は、現在進行形で施策の推進を図っているところですので、引き続き、重点施策に位置付けております。

一方、③は今回新たに加えた内容です。平成25年12月に、文部科学省が「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表したことを受けまして、真ん中の「新たな教育課題への対応」として、「3 外国語教育の早期化への対応」を掲げております。

この実施計画は、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、小学校5・6年生から実施している外国語活動を小学校3・4年生から実施し、中学校1年生から実施している教科としての英語学習を小学校5・6年生から実施、というように外国語教育の早期化を図るものでございます。

文部科学省は、これを平成30年度から段階的に実施、平成32年度から完全実施すると予定しておりますが、平成30年度から先行実施するにしても、各学校が円滑に取り組み始めるようにするためには、前年度から、その体制整備、例えば外国語活動指導員の確保などが必要になると考えまして、新たな教育課題として、平成29年度重点施策に加えたものでございます。

教育委員会事務局としましては、本日の総合教育会議において、これらの重点施策についてご協議いただき、その結果を踏まえまして来年度の教育行政運営方針の策定に取り組みたいと考えております。

なお、1つ目の柱である「新規事業」の進捗状況に関する資料を添付いたしましたので、こちらもご説明させていただきます。資料3をご用意ください。

まず「校内塾・まなびくらぶ」でございます。昨年8月に全小中学校で開設し、今年度3年目を迎えます。参加者だけでなく、指導者も増え、「(2)進捗状況」の効果にございます参加者アンケートの結果を見ても、好評をいただいております。

また、「(3)の今後の予定」にございますとおり、予算を全校に配分した上で大規模校には10万円を加配し、有効活用が図られるよう配慮しているところでございますが、今年度は当初予算を100万円の増としていただきましたので、増となった分につきましては、ニーズが高い学校に配分し、さらに効果を高めていきたいと考えております。

次に、小中一貫教育は、塩浜学園では、4・3・2の学年区分による小中一貫教育が2年目を迎えましたが、「(2)進捗状況」にございますように、今年の4月から、全国初、県内では唯一の義務教育学校となり、5月には学校運営協議会を設置してコミュニティ・スクールの指定を受けたところでございます。

「(3)今後の予定」ですが、小中一貫教育の検証や「塩浜ふるさと防災科」のカリキュラム開発、一体型校舎の整備などを着実に進めていきたいと考えております。

最後に、中高連携の推進についてでございます。「(2)進捗状況」にございますように、昨年5月に「市川市中高連携推進に関する基本構想」を策定し、現在、公立高校、私立高校との中高連携を進めているところでございます。

私立学校との連携に関しては、昨年8月に市川市教育委員会主催により「学校間連携推進研修会」を開催し、市内私立学校から一貫教育の取り組みを発表していただいたところです。今年も開催する方向で検討しております。

また、公立学校との連携に関しては、昨年4月からモデル校における研究をスタートさせ、今年4月に「市川市中高連携連絡協議会」を開催し、1年目の取り組みについて発表していただいたところです。引き続き2年目の取り組みを進めております。

説明は以上となります。

○市長

ありがとうございました。

説明が終わりましたので、協議に入りたいと思います。

最初に私から1点申し上げます。

資料2の中で「新たな教育課題への対応」の「1 家庭・学校・地域の連携施策の再構築の検討」とありますが、例えば「コミュニティ・スクール」や「ナーチャリング・コミュニティ」、また「放課後保育クラブ」や「ビーイング」など様々な事業の名称があり、わかりにくいなどの声も実際にいただいております。

これを機に再構築していただき、一本化した中で細分化するなど、わかりやすい名称にしていただければと思っています。

どんな事業であるのか直感で伝わるような名称がいいと思っておりますが、なにかこ

れまで取り組みがあれば教えていただけますでしょうか。

○生涯学習部長

地域では学校支援や子どもの居場所づくりなど様々な活動が行われておりますが、地域の方々からも多くの活動や団体があって、わかりにくいといった声も頂いています。

本市では昭和55年にコミュニティスクールの事業を開始して以来、「ナーチャリング・コミュニティ」や「コミュニティ・サポート事業」と言った、時代に応じた取り組みを行ってきました。

しかし、共通して言えることは地域と学校が連携、協力して作り上げることであろうかと思えます。

その中で、昨年3月に教育再生実行会議において、全ての公立小中学校に「学校運営協議会」を設置して、「コミュニティ・スクール」の普及を図る、こういった提言が出されました。

この「学校運営協議会制度」というのは、地域と一体となって子どもたちを育む、地域と共にある学校を推進していこうという制度で、この制度を導入している学校を「コミュニティ・スクール」と呼びます。

学校運営協議会では学校支援の総合的な企画立案を行い、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりや小中一貫教育などによる教育の円滑な接続に関して、地域が学校支援という形で積極的に関わっていく仕組みです。

本市ではまずこの取り組みを塩浜学園で先行して実施するという事で、学校関係者、地域の方々との協議を進めているところです。

また、地域における連携・協働体制は「学校運営協議会」と両輪をなす新たな組織として、「地域学校協働本部」の体制づくりにも着手しているところです。

本市には地域にそれぞれの活動ごとにコーディネートされている取り組みとして、例えば学校支援活動である「学校支援クラブ」、また登下校の見守りを行っている「見守り隊」、あるいは放課後の子どもの居場所づくりとして「ビーイング」「校内塾・まなびくらぶ」「コミュニティ・クラブ」「放課後保育クラブ」など様々な取り組みがあります。

この「地域学校協働本部」は個々の団体活動をネットワーク化して一体化する体制として位置付けられていることから、学校運営協議会「コミュニティ・スクール」と効果的な連携を保ちながら、地域と学校の効果的な連携協働の推進を図っていきたいと考えています。

なお、名称は「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」は国から出されている名称であるため、今後各自治体でどのような名称がつけられていくかということについて、さらに検討していきたいと考えています。

以上です。

○市長

ありがとうございます。

名称については正式名称と通称名があるため、国からの名称は外せないということであれば、市川市だけの通称名を付けるなどの方法もあるため、あまりルールにとらわれないようにお願いしたいと思います。

では教育委員の皆さま、これからの教育について、どのような点に力点を置いていくべきだとお考えでしょうか。それぞれのお立場から、さまざまなお考えをお持ちかと思しますので、委員の皆さまからお一人ずつお願いできますでしょうか。

まずは五十嵐委員、お願いします。

○五十嵐委員

子どもは色々な子がいるということで、それに応じた多様な対応・指導が今後ますます必要になると考えます。

また、教員も型にはまらず、様々な対応が必要になるかとも考えています。先日 2 年目の教員との懇談会がありましたが、例えば「子どもがなかなか九九を覚えられない」など問題を抱えていると聞きました。

そこで覚えられないから止まるのではなく、覚える方法、助ける方法、九九表などを用意して自力で解決できる方法など、教員が色々な手立てを持っていないと対応できないと感じました。

予算も大事ですが、教員の人間性そのものも大事だと考えます。

○市長

九九といえば、アメリカの方は「引き算」をする習慣があまりありません。店での会計なども、お釣りを「足し算」して計算しています。できなくても恥ずかしいことではなく、工夫する手立てを持っていればそれでよいと思います。

ありがとうございました。

では平田史郎委員、お願いします。

○平田史郎委員

2 年目の教員と話をして、若く情熱あふれる教員が多く、大変すばらしいと感じました。

ただ、生活指導、学習指導、クラブ活動などで忙しい毎日を送っているようです。

私も助言者として話をしましたが、やはり長い目で見て教員の個性、人間としての幅の厚みが、いずれ子どものために返ってくる人が多いと考えます。

若いうちは毎日夜 10 時まで残業し、帰って翌日の準備、土日はクラブの指導という

ことでもいいですが、長期的に見て人間として、教員としての余裕を持った時間を作っ
てあげることが必要だと考えています。

そこで、重点施策にある「教職員が子どもと向き合う時間の拡大」は重要だと思いま
すが、さらに一步進んで「教職員が子どもと向き合わない時間」を確保してあげたいと
思っています。

「自分の趣味に打ち込む」「自分を高める」など、教員負担を減らして、若いうちから
自分の時間を持てる余裕が必要と考えます。

若いうちは、例えば休み時間に子どもと「どろけい」で駆けずり回って、放課後は「ポ
ケモン」と「ワンピース」の話ができればいいかもしれませんが、40歳、50歳とな
ったときに、子どもたちが目指す大人として理想のモデルになるために、人間としての
厚みを身につけてもらいたいと思っています。

○市長

ありがとうございました。

教育長はいかがでしょうか。

○教育長

中学だと圧倒的に部活に従事している教員が多いと聞いています。

○市長

私の家の近所に、東京都の教職員の夫婦が住んでいて、土日に2人でゴルフに出かけ
ているようです。このような切り替えも非常に大切だと思います。

平田史郎委員のご意見に対し、皆さまから何かご意見があればお願いします。

○小林委員

若い先生とのお話の中で、「問題のある子どもと向き合う時間を作りたいが、そういう
時間が取れない」といった相談がありました。校務支援システムもそうですが、若い先
生に限らず、教員、子どもと信頼関係を作るための、ゆっくりと向き合う時間を作って
あげたいと考えています。

○市長

子どもと「向き合う時間」と「向き合わない時間」の拡大の提案がありました。

これについて、教育長はいかがでしょうか。

○教育長

やはり教職員の多忙さは指摘されています。

解消する意味では、例えば「校務支援システム」などのハード的な面のほかに、ソフトの両面で、教育委員会がしっかり旗を振って取り組んでいかななくてはならないと考えています。

今後も対応策を考えていきたいと思います。

○市長

ありがとうございました。

それでは鈴木委員、お願いします。

○鈴木委員

市川は教育、文化のまちと実感しているところです。教職員の多忙化を防ぐ意味でも、川崎の事件がきっかけではありますが、「地域学校協働本部」を今後作らなくてはならない中で、いったい誰が支えるのかという課題があります。しかし、市川ならば十分に家庭教育支援を受けた人たちが循環していけると感じています。つまり、支援を受けた人が後に支援する側の役割を担う、そういう循環するようなシステムができれば、と思います。

特に、幼稚園児のお母さんは日中地域にいらっしゃいますが、そういう方々がPTAの担い手になったり、「地域学校協働本部」に入って、家庭教育支援という形で、個別の訪問、支援チームを作ったりと、循環するようなシステムが市川というこの地だったらできるな、と夢を持っています。

○市長

鈴木委員より、新しい角度からのご意見がありました。

これについて、教育長はどのようにお考えになりますでしょうか。

○教育長

ご指摘のとおり、そのようなところに切り込んでいくような施策や事業を考えていかななくてはなりません。既存の中から整理し、より効果が得られるものを作り出すようなアクティビティを事務局が持っていかななくてはならないと考えています。

○五十嵐委員

平田史郎委員と稲荷木小学校を見に行った際、いじめの問題で「各地域の方」、「保護者」がチームを組み、授業全体は教員が行うものの、グループに分かれ、各地域の方がグループトークのサブティーチャーになるという取り組みがありました。

グループトークを聞いていると、サブティーチャー役の方々は子どもの意見を聞くのがとても上手で、子どもたちの言いたいことを否定することなく、最後に保護者がまとめる形で上手に進行されていたということがありました。

○**市長**

その方々はどのような年代でしたでしょうか。

○**五十嵐委員**

保護者の方もいますし、もっと年配の方もいらっしゃいました。また、ブロックの保護者や、男性もいらっしゃいました。まだ動き出したばかりとのことでしたが、課題を解決する上でいい場であると感じました。

○**平田史郎委員**

そのような熱心な方を巻き込むような形を作ることは非常に大変で、時間をかけないといけないと思います。

○**市長**

鈴木委員から、新しい角度からのご意見でした。

では平田信江委員、お願いします。

○**平田信江委員**

先生の多忙さに関しまして、自分の子どもが通っている学校でも感じています。しかし中には、部活の指導をしたくて教員になったというような、情熱を持っている先生もいらっしゃいます。先生たちの教育に対する情熱、姿勢に合わせた柔軟な制度があるといいかなと感じました。

子どもの貧困の問題ですが、自分の周りでもちょっと大丈夫かな、という家庭がちらほらあります。この辺りについてどのようにしていったら、と私自身も模索しています。貧困と言っても、金銭的、物理的に明らかな貧困もあれば、精神的なもの、つまり親の意識が低いと子どもに影響し、連鎖してしまいます。先生自身のスキルアップと一緒に、親として、大人として、レベルアップしていけるようなことに協力していけたらと思います。教育はすぐに結果が出るものではなく、30年とか経ったあとに出てくるものだと思いますので、長い目で見ていけたらいいと考えています。

また、控室で「千葉県は資源が少ない」という話が出ましたが、人という資源は平等にあります。これを最大限に活かすには、教育をしっかりしていけないと、と感じています。

○市長

今、貧困という言葉が出ましたが、金銭的な貧困については我々の時代はほとんどがそうでしたが、今はどうなのでしょう。

○平田史郎委員

岡山県の一部の小学校では、朝食を食べなかった子供に1時間目と2時間目の休みにクラッカー・ヨーグルト・牛乳などを提供しているそうです。

そういった取り組みもよいですが、そもそも親が朝食を食べさせず学校に行かせることはネグレクトだと思います。親に朝食を用意させるよう啓発できればと考えます。

○市長

ありがとうございました。

では小林委員、お願いします。

○小林委員

教職員の子どもと向き合う時間の拡大について、校務支援システムを活用していくという話がありました。

ひとつ、意見ではありませんが、今年の運動会をいくつか見た中で、塩浜学園と他の学校のラジオ体操を見たところ、塩浜学園は他の学校に比べて、全ての子どもがしっかりとラジオ体操に取り組んでいました。これは小中一貫校の良さが出たものだと感心しています。

また、塩浜学園の生徒会との話し合いを平田信江委員と行きましたが、「プールがないので大変でしょう」と聞いたところ、「スイミングスクールの方が、プールがあったかい」「指導員がたくさんいる」と、自分たちが考えているようなこととはまるで違う意見がありました。

○市長

教育委員の皆さまからたくさんのご意見をいただきました。

最後に教育長、お願いします。

○教育長

施策や事業に関して、一つの目玉である「校内塾・まなびくらぶ」については、年々需要が高まり、効果も上がっています。ただその中で、子どもには学力向上だけではなく、絵を描きたいなど、子ども自身のニーズがあります。そこにいかに答えていくかと

ということで、講師をさらに幅広く求めていくことなど、視野を広げるという意味で充実を目指していく中で、今後の課題となると受け止めています。

また、市長のご指摘にもありましたが、「コミュニティ・サポート」「コミュニティ・スクール」や「ビーイング」など、横文字が多く何の事業だか非常にわかりづらいという課題があります。同じ成果を上げようとしている事業があるため、整理・統合し一本化していくような形を早急に対応していかななくてはいけないと考えています。日本語で端的に、パッとその事業を言い当てるような事業名について、子どもたちの発想や、市民、保護者へのアンケートなどにより出てきたものを事業名とすることも、一つの方法であると考えます。

その他、子どもたちとの話し合いの場に参加したところ、非常に活発で、学校教育の中で対話的な活動、あるいは特別活動の中の学級会活動が、ある程度しっかり展開されているなと感じました。子どもたちは、最初はあまり喋りませんでしたが、時間が経つと徐々に色んな意見が忌憚なく出てきました。これからもさらに対話的な活動を伸ばしていきたいと、子どもたちから感じとりました。

学校にはさまざまな成果・課題がありますが、中学校ブロックを見ると、中学校が1校であるのに対し、小学校は2校から3校あります。今までは中学校、A小学校、B小学校、C小学校とそれぞれが課題について考えていましたが、中学校ブロックで共通して見える課題はブロックとして考えることで、課題解決や成果を伸ばすことにつながるのではないかと思います。小学校から中学校にいった子どもに対し、小学校と同じスタンスで指導でき、効果が高まると考えますので、そこを伸ばしていきたいと思います。

最後に、小中学校では「クリーン作戦」といって、空き缶拾いなどを行いますが、小学校、中学校の子どもたちは一生懸命取り組んでいる一方で、高校生や20歳を過ぎた教え子と会った際、空き缶を車から捨ててしまうというようなこともありました。やはり、気持ちに裏打ちされる、大人になってもやろうという道徳心、価値観の教育について、まだそこまで成長しておらず、市川市の教育の課題ではないかと考えています。電車の中で席を譲る子どもは見ますが、大人になっても継続されるのかな、と危惧するところがあります。道徳心を育てていきたいと思います。

○市長

市川市の教育課題をしっかりとらえていらっしゃると思います。今後、より良い教育現場になるようお願いします。

席を譲ることについてですが、私の知り合いの子どもが席を譲ろうとしたら「次の駅で降りますからいいです」と言われてしまったことがあったそうです。そういったことがあると、非常に譲りづらくなってしまいます。

皆さまから多くのご意見いただきましたが、時間も少なくなってきました。

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

————— 意見なし —————

○市長

よろしいでしょうか。

本日の総合教育会議について、教育委員会でお考えになられた平成29年度の重点施策について、詳細な説明をいただき、よく理解することができました。ありがとうございました。

必要な予算措置につきましては、市長プレゼンテーションや、財政部との調整などにより、寛大に、そして厳しく審査していければと思います。

以上で、本日の議題の協議はすべて終了しました。

今日はこうして貴重なご意見、お時間をいただきありがとうございました。大変いい機会であったと感じております。

なお、本日は時間の関係で触れられなかったのですが、以前から本市の道德教育や英語教育について意見交換をしたいと考えておりました。本年度は秋ごろに第2回目の会議を開かせていただいて、このような議題について議論を深めてまいりたいと考えております。

近くなりましたら、また招集通知を出させて頂きますので、ご協力お願いいたします。

それでは、平成28年度第1回市川市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

————— 終了 —————